

西光寺だより

第八号 平成二十三年四月四日発行

四月、新年度の始まりです。桜も咲き誇るこの月は、出会いの季節でもあります。卒業や退職などで別れを告げた人もまた新しい出会いがあり、それぞれの人生の新しい門出を歩き始めます。

出会いと別れ、喜びと悲しみ、光と影、生と死、すべては表裏一体に存在しているのですね。

しかしながら、三月十一日、皆様もご存じのとおり東北地方太平洋沖地震が発生し、甚大なる被害が起こりました。

すべては表裏一体、いっどうなるか分からない無常の世界に生きている私たち。明日は分からないわが身といえども、今回の被害の報道を前にして恐れる気持ちと何も出来ない自分、そして何か支援できることはないかと驕れる自分に気づきました。このようなとき、わたくしたちはどう在ればよいのでしょうか。それぞれ答えは違うでしょう。ただ今は、念仏申し上げながらいまなお続いている悲しみにお見舞い申し上げるとともに、慎んでお悔やみ申し上げます。

さて、西光寺においては四月三日の親鸞聖人七百五十回大遠忌ならびに西光寺第二十世住職継職奉告法要を厳修致しました。

皆様のお蔭をもちまして無事に法要を終えさせていただくことが出来ました。心より感謝いたしております。

法要につきましては後述させていただいておりますが、先ずは冒頭にて御礼申し上げます。誠にありがとうございます。



● 今月のことば ●

『白骨章』

それ 人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、

おほよそはかなきものはこの世の始中終、まぼろし

のごとくなる一期なり。 (中略)

われや先、人や先、今日ともしらず、明日ともし

らず、おくれさきだつ人はもとのしづくすゑの露よ

りもしげしといへり。されば朝には紅顔ありて、夕

には白骨となれる身なり。 (中略)

されば 人間のはかなきことは老少不定のさか

ひなれば、たれの人もはやく後生の一大事を心にか

けて、阿弥陀仏をふかくたのみまゐらせて、念仏申

すべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。

『白骨章』意識

さて、人間の不安定な姿をつくづく考えてみますと、およそ、はかないものとは、始めから終わりまでの、まぼろしのごとき一生です。(中略)

私が先か他人が先か、今日とも明日ともわかりません。先に死ぬか後に死ぬかは、根元の雫や葉先の露のはかなさよりも予測ができません。ですから、朝には元気な顔であっても、夕べには白骨となる身であります。(中略)

人間のはかなさは、老いも幼きも定まりのない境界ですから、どの人も、まずもって後生の一大事を心に受けとめ、阿弥陀仏におまかせして、念仏申すべきであります。

◆四月三日の報告◆

平成二十三年四月三日(日)、西光寺にて親鸞聖人七百五十回大遠忌ならびに西光寺第二十世住職継職奉告法要を厳修致しました。御寺院様十五名、楽人様三名、御講師一名、寺族十四名、参拝者百十名の方々に参詣して頂き皆様のおかげをもちまして、無事法要を終えることが出来ました。本来にありがとうございます。

当初の予定では、稚児行列・祝賀会を予定しており約三十名のお稚児さんが行列する予定でしたが、三月十一日の東北地方太平洋沖地震の甚大な被害を考え、自粛させて頂き、祝賀会の費用を災害義援金として使わせて頂く運びとなりました。また、稚児行列の時間を被災者の方の追悼法要として厳修し、皆様で東北の地までお念仏の声が届くよう、声高らかにお勤めさせて頂きました。

親鸞聖人七百五十回大遠忌のこの年に、西光寺第二十世住職の法燈を継ぐ法要をお勤めする事が出来、無上の喜びであります。

しかしこの日を迎えるまで総代様はじめ、講員の方々、仏教婦人会の皆様、ご門徒の皆様、西光寺にご縁のあるすべての方々のお力添えがあったからこそ出来た事でございます。第十九世住職の父が亡くなり一周忌を終えてから総代様には総代会・役員会を度々開いて頂き協議・議論し、法要委員を立ち上げ委員の役割・内容を決め、講員・仏教婦人会の委員の方には交通整理・受付・法要進行・接待の役にそれぞれ就いて頂き、約三十五名の方にご尽力頂きました。

○交通整理係の皆様・新たにしやすい看板を作って頂き、御寺院様・参拝者の車の誘導・整理、大変だったと思います。寒い中ありがとうございました。

○受付係の皆様・・・お寒い中テントに入って頂き御寺院様・参拝者の記帳業務や玄関案内、会計、パンフレット配布など慌ただしかったですが、大変御苦労さまでした。

○接待係の皆様・・・仏教婦人会の方々、笑顔絶やさず御寺院様の湯茶の接待・片付け、そのうえ献花 献灯 献香までして頂きました。御婦人方の笑顔、力になりました。ありがとうございます。

○法要・進行係の皆様・・・法要司会、梵鐘、参拝者の誘導、イスの配置など緊張感のある本堂で、目に見えない所での気配り、ありがとうございます。

○総括の皆様・・・法要全体を見て頂き、法要では総代の役目があり色々な事が気がかりだったと思いますが、そのぶん前もつての内容準備、そしてすべての役員総括に力を注いで頂き、ありがとうございます。

そのうえ前日の法要準備(幕張・境内清掃など)と、法要終了後の後片付けまで本堂にありがとうございました。

皆様の思いが行動に移り、行動があるからこそ思いがみえた法要でした。本当に本堂にありがとうございます。心から御礼申し上げます。ここから新たなスタートですが、力の限り頑張ります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



法要は、宗祖讃仰作法でのお勤め。
皆様で練習した作法、背中で声を感じれた法要
でした。その後、正信偈で追悼法要。



西光寺第二十世住職継職式
茨木東組組長 専念寺住職より、住職辞令交
付・本願寺祝詞 代読披露。組長祝辞 披露。

㊦ あとがき

ホームページではお知らせしておりましたが、このたび西光寺だよ
りの発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

四月三日の法要のご報告と御礼を当月のうちに皆様にお伝えしたく、
こちらの判断により四月四日の発行とさせていただきます。

本堂に多くの皆様のお力により、私達にとって生涯忘れることの出
来ない法要となりました。総代様はじめ講員の皆様、仏教婦人会の皆
様、ご門徒の皆様、そして西光寺に
関わっていただいたすべての皆様
に心より感謝いたします。言葉では
言い尽くせない気持ちです。

本当にありがとうございます。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一一

電話 ○七二一六二二一四七九四

FAX ○七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>



西光寺講員様一同から贈呈された七条袈裟で
す。
記念誌の表紙にもなっています。
一生の記念です。ありがとうございました。